



新年の挨拶

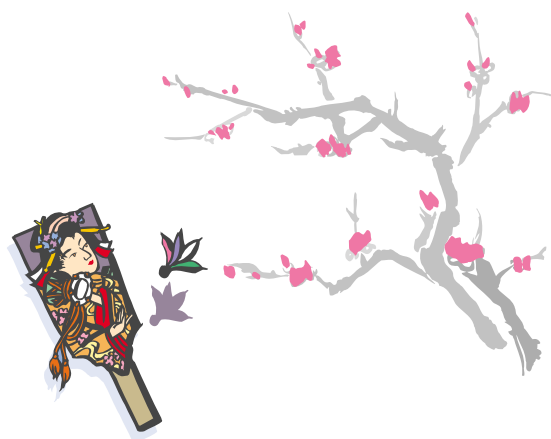
病院長 石黒 直樹

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、昨年は名大病院にとって平穏な年であったと記憶しております。細かな事象はありましたが、大過なく推移して新たな歳を迎えることが出来ました。これも職員をはじめ、関係者の皆様のご尽力によるものと感謝申し上げます。病院は安心と安全を提供することが常に求められています。平穏な病院運営はそれに充分に答えている証かも知れません。

今、また新しい年が始まることになりました。今年は消費税率変更、診療報酬改定、日本版NIH構想など病院を取り巻く社会環境の大きな変化が予定されています。名大病院は新たな環境においてもその存在目的を達成するべく進み続ける必要があります。言うまでもなく、当院の存在目的は①医療提供機能の充実、②人材の育成、③高度医療・次世代医療の開発です。以前から「適者生存」という言葉があります。強い物ではなく適合する物が生き残るという意味です。これを組織に当てはめると環境の変化に合わせて自身を変える組織のみが生き残るという事になります。強い組織が生き残る訳ではありません。時代環境に組織の有り様を変化させる必要がここにあります。

名大病院は140年の歴史を誇る、地域でも最も伝統ある病院です。地域では大きな信頼を得て、医療を支える大きな力となっています。これを更に後世に引き継ぐ必要があります。そのためには時代背景に併せて変化し続ける必要があります。伝統という物は守る物でなく、創る物です。今、新たな年が始まります。名大病院に働く人々が新たな伝統の一頁を創る作業を開始するに相応しい年を迎える事が出来たことを信じております。最後になりますが皆様のご多幸を祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。



目次

①新年の挨拶	1	⑨平成25年度鶴舞公開講座	
②新任の挨拶	2	「いつまでも健康で快適な生活を送る秘訣」	10
③「ドナルド・マクドナルド・ハウス なごや」の開所式と祝賀会	3	⑩ボランティアさん紹介	11
④冬の感染症にご用心	4	⑪行事報告	11
⑤ソウル国立大学病院からの研修生を迎えて	5	⑫ナディック通信	17
⑥健康講座／精神疾患の発症と遺伝の関係	6	⑬名大病院の医事統計	19
⑦研修医の災害医療支援活動	8	⑭編集後記	20
⑧名古屋大学医学部附属病院の災害医療支援活動	9		

新任の挨拶

病院長補佐・メディカルITセンター長／病院教授 白鳥 義宗

新年明けましておめでとうございます。平成26年1月1日付けをもちまして、メディカルITセンターの病院教授を拝命致しました。名大病院関係の皆様にご挨拶を申し上げます。

私は、昭和61年に岐阜大学医学部を卒業し、現在まで消化器内科医として研鑽を努めて参りました。その間、平成4年にはアメリカのコロンビア大学医学部、平成12年にはフランスのストラスブールにある国立研究所で、悪性腫瘍ならびに動脈硬化に関わる生化学・遺伝子研究に従事し、海外の医療についても見聞して参りました。さらに医療におけるコンピューター利用の大きな可能性を認識し、平成14年からは岐阜大学医学部附属病院で病院情報システムを担当して参りました。

さて、私の担当するメディカルITセンターですが、平成21年4月に院内に設置された比較的新しい部署です。院内のコンピューターシステムであるいわゆる「電子カルテシステム」の導入・維持管理をしています。ご存じの通り医療の世界では、技術進歩のスピードが著しく、その裏側の機器の進歩には、コンピューターやそのプログラムの進歩が深く関与しています。今やコンピューターなしで高度な医療を展開する事が難しいという時代に入ってきています。しかしながら、より大規模なコンピューターシステムではまだまだ不完全な部分が多く、先端医療のニーズに十分答えているとは言えないのが現状です。名大病院にはたくさんの優秀なドクターやメディカルスタッフがおみえになります。そして、高度で先進的

な機器もたくさんあり、豊富な臨床経験やその機器に対するノウハウもたくさん蓄積されています。これらをバラバラに利用するのではなく、院内全体でより効率良く有機的に利用出来るような対策を、コンピューターシステムを利用することにより実現していきたいと考えています。より良い医療を実現するためには、みんなの力を合わせた、多職種でのチーム医療が不可欠です。これからはそのチーム医療の輪の中にコンピューターも入れていただき、人と機械がそれぞれの得意分野で協力する事により、ヒューマンエラーも無くす、より安全で安心な医療を展開していきたいと考えております。

まだまだシステムは未熟で医療者による教育が必要なレベルであり、お手間を煩わせご迷惑をお掛けすることも多々あるかと思えます。機械に血を通わす事も出来ませんが、人のぬくもりの感じられるシステムを目指してレベルアップを図っていききたいと考えております。院内の皆様方のお役に少しでも多く立てるようなシステムにしていきたいと考えておりますので、今後ともメディカルITセンターにご指導ならびにご協力をよろしくお願い申し上げます。



「ドナルド・マクドナルド・ハウス なごや」の開所式と祝賀会

病院事務掛

本院及び入院患児を持つ家族の方が待ちに待った「ドナルド・マクドナルド・ハウス なごや」が、このたび、本学の全面支援でこの鶴舞キャンパス北西に建設されました。このハウスは、公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン(以下、DMHC)が事業として進めている遠方から入院する子どもに付き添う家族のための滞在施設であり、国内では9号目となるハウスです。敷地面積は1,009㎡、延床面積は1,192㎡の3階建てで、ベッドルームは12室あります。本院を始め、他病院に入院されている小児患者の家族が、1泊1,000円で施設を利用する事ができます。

利用開始時期は、来年の1月6日(月)からとなりますが、これに先駆け、11月27日(水)にDMHCと共同で開所式及び祝賀会を催しました。

開所式には、ハウス建設にご尽力いただいた学内外の関係者57名が出席し、午前10時からDMHCの柳澤理事長の開会挨拶で始まり、濱口総長、石黒病院長、原田日本マクドナルド株式会社代表取締役会長らの祝辞がありました。続いて、ハウスの建設費用として、本院が募金活動で集めた金額を松尾副総長からDMHCの柳澤理事長に贈呈しました。また、アーティストの石井竜也氏が作成された自作のオブジェがハウスに寄贈された後、代表者らによるテープカットが行なわれ、ハウスの開所を祝福しました。



式典後、本院中央診療棟3階講堂において、建設募金にご協力いただいた方々をお招きしての祝賀会を開催しました。祝賀会には、250名程の寄附者の方々が参加され、大村愛知県知事、戸刈名古屋市長らからの祝辞があり、DMHCの柳澤理事長から募金代表者に感謝状が贈呈され、おうちプロジェクトなどのハウス支援団体の紹介等がありました。また、マクドナルドのマスコットキャラクター「ドナルド」も参加し、終始和やかな雰囲気の中、祝賀会が進行しました。

振り返れば、ハウスの誘致が平成23年11月に決定してから、平成24年3月に発起人決起集会(キックオフイベント)を行い、建設募金を集めるための企業周りや様々なイベントを行い、この開所式の日を迎えられたことは大変感慨深く、またうれしく思います。これも皆さま方のご理解とご支援の賜であります。この場をお借りしてお礼申し上げます。



開所式の様子(テープカット)

冬の感染症にご用心

中央感染制御部長 八木 哲也

今年もまた寒い冬がやってきました。この時期に流行する感染症がいくつかあり、その代表がインフルエンザとノロウイルス感染症です。

インフルエンザはインフルエンザウイルスによって引き起こされる急性感染症で、普通の感冒とは異なり急速に発症する発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛、全身倦怠感を特徴とし、咽頭痛、鼻汁、咳、痰などの上気道炎症状を伴います。高齢の方や、基礎疾患のある方は症状が重くなることがあるので注意が必要です。ウイルスは咳やくしゃみによって発生する飛沫によって伝播します。したがって、症状のある方は、サージカルマスクを着用して周囲に飛沫が飛散ないようにします。また症状のある人に近づく場合にもサージカルマスクを着用した方が良いでしょう。インフルエンザ予防にはワクチンがあり、毎年接種する必要があります。発症予防や重症化予防効果が期待できます。もし、インフルエンザ様の症状が出現したら早期に医療機関を受診し、診断・治療を受けましょう。抗インフルエンザ薬には内服・吸入・注射薬があり、早期に使用すると解熱が早く重症化も減らすことができます。インフルエンザの後には肺炎も起こすこともあり、その予防のため肺炎球菌ワクチンも合わせて接種しておくとい良いでしょう。

ノロウイルス感染症は、通年性に見られますが特に冬に多い急性胃腸炎です。ウイルスは感染力が強く、数十個でも病気を起こします。ウイルスに汚染された魚介類、牡蠣などの2枚貝、生野菜などの食品を介して、患者の吐物や下痢便を介して経口感染します。1日から2日の潜伏期の後、悪心・嘔吐、下痢で発症し、数日で軽快します。重症となることは少ないですが、高齢者では脱水や基礎疾患の悪化に注意が必要です。感染対策としては手洗いの励行、患者さんの吐物や下痢便の処理には細心の注意が必要です。ノロウイルスはアルコール製剤の効果が弱いので、手洗いは流水と石鹸で、消毒は次亜塩素酸系の消毒薬を使用して下さい。残念ながら、ノロウイルス感染症に有効なワクチンや特效薬はありません。

他にも乳児に肺炎や気管支炎をおこすRSウイルス感染症も冬に流行し、今年も患者発生数が多いようです。大人でも心臓や肺に基礎疾患がある方では急な病状の悪化の原因にもなり、注意が必要です。

冬はいろいろな感染症が流行する時期ですが、ワクチンで予防できるものは予防して、栄養をしっかり摂り規則正しい生活を送って、この寒い季節を元気に乗り切りましょう。



ソウル国立大学病院からの研修生を迎えて

看護部 企画・開発担当 若園 尚美

名大病院は、昨年ソウル国立大学病院とMOUを結び、10月7日(月)から1週間、2回目の研修生を受け入れました。今回は成人の手術室の師長カン・ヘヨンさんと、小児の手術室のスタッフ看護師のキム・ボラさんです。ソウル国立大学病院は年間5万件の手術をおこなっていて、総看護職員数は2,000人を超します。当院とは比べものにならないほどの手術を毎日マネジメントしている2人の研修生です。

手術室を中心に患者さんの流れ、必要な器材・検体・薬剤の流れがわかるように、また中央感染制御部の八木教授と医療の質・安全管理部の安田先生に講義をお願いして、5日間のスケジュールを作成しました。

当院の手術室は4月に師長が交代し、また手術室認定看護師を2人迎えました。これまでのベテラン看護師とともに新しく動き始めた手術室を見てもらうことになりました。研修前半は病院全体の見学や安全・感染の講義、また手術を受ける患者さんが入院している5W(小児外科病棟)、3E(心臓・呼吸器外科病棟)を半日ずつ見てもらいました。小児の手術室入室の際、同伴するチャイルド・ライフ・スペシャリストの活動も見てもらう事ができました。後半に入り手術室に入ると目を輝かせて、色々な物に関心を示されました。特にサプライや中央材料部の管理は、強い関心を示されていました。手術を確実に



行うために手術器材・ME機器・検体・輸血など多くの人が手術を支えていることを高く評価していただきました。また、師長・副師長・認定看護師の役割も理解していただき、ソウル国立大学病院の組織図を頭に浮かべながら比較して理解されていました。彼女たちがそれぞれの病院の役割やシステムの違いを理解しようとする姿は、そのまま私たちがソウル国立大学病院へ関心を持つことに繋がっていく5日間でした。また手術室の韓国語が堪能なスタッフにも大いに助けられました。

来日当日には名古屋城に行き、復元されたばかりの本丸御殿を見てもらいました。研修期間の夕食は手羽先や回転寿司・天ぷら・鰻井など日本食三昧でした。夕食中、小学生の息子さんから電話がありましたが、お母さんが遠くにいることをとても心配して、毎日「早く帰ってきて」と電話があるそうです。「日本のお友達と仲良くやってるよ、と返事をしてるの」と言われました。

研修最終日の夜は「なばなの里」に行き、感動・感激されていました。翌日は自分たちだけで大きなスーツケースを持って伊勢神宮に行かれました。私たちの心配をよそに、計画した以上にたくさんのものを見ることができたと報告がありました。



健康講座／精神疾患の発症と遺伝の関係

精神科長・親と子どもの心療科長
遺伝カウンセリング室長 尾崎 紀夫

精神疾患は遺伝で決まる病気なのでしょうか？

統合失調症、気分障害（うつ病や双極性障害）、摂食障害、自閉症スペクトラム障害が発症するには、どれも遺伝要因だけではなく、環境要因も重要な役割を果たしていることが知られています。すなわち、精神疾患が発症する際には、その人が持っている、生まれながらの体質（遺伝要因）と生活習慣などの影響（環境要因）との両者が複雑に組み合わさって生じていると考えられています。

図1をご覧ください。左にいくほど発症に遺伝要因が強く影響し、右にいくほど環境要因が強く影響します。環境要因が強く影響する疾患としては怪我などがあり、遺伝要因が強く影響する疾患としては単一遺伝子疾患と言って、遺伝子の違いによって起こるような疾患があります。しかし精神疾患は、図の真ん中辺りにあり、発症に両方の要因が関係していることがわかります。

すなわち、精神疾患は、遺伝だけ、環境だけで発症が決まるわけではありません。しかし、患者さん、ご家族、そして一般的に、「精神疾患は遺伝性疾患である」とか「親の育て方のせいで病気になった」という極端な考え方が見られることがありますが、そうではありません。

疾患の発症に対する遺伝要因の影響は、双生児（ふたご）について調査することで、より明確にすることができます。つまり、遺伝的に全く同一と考えられる一卵性双生児と、遺伝的には50%の類似性があると考えられる二卵性双生児について、疾患の発症頻度を比較することで、その疾患に対する遺伝要因と環境要因の影響を推測出来ます。

理論的には、遺伝要因だけで生じる疾患では、一卵性双生児は遺伝子が全く同じなので、一致率（双生児の両方が同じ病気を持つ）は100%になるはずですが、環境要因だけで発症する疾患ならば、遺伝は関係ないので一卵性と二卵性の一致率に差がないはずですが。

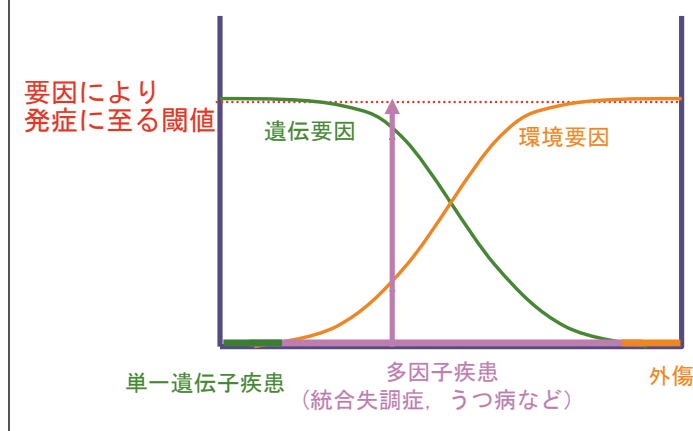
図2は、様々な疾患の双生児（ふたご）研究の結果です。もし精神疾患が遺伝要因だけで発症するのであれば、一卵性双生児での一致率は100%となるはずですが、そうではありません。また環境要因だけで

発症するのであれば、一卵性と二卵性の一致率に差がないはずですがそうではありません。よって、このような疾患は、遺伝要因も環境要因も発症に関係する病気と考えられます。

また結核のような一見遺伝とは関係ないように思える疾患でも、同じような結果になっており、やはり遺伝要因も環境要因も発症に関係していると言えます。



図1. 疾患の発症と遺伝要因、環境要因の関係



遺伝要因、環境要因と発症の関係は?(結核を例にして)

先に示しました通り、精神疾患や結核の発症には、ともに遺伝要因と環境要因が関係しています。そこで結核を例にとり、発症のメカニズムと発症後の症状について説明したいと思います。

図3のように、結核が発症するには、もともとその人が持っている遺伝要因に、成育環境が関わり、基本的な免疫力を作ります。更に、結核菌が体内に入った時の環境(例:低気温)や併発疾患(例:糖尿病)が影響することにより、結核菌が体内に入った時の免疫力に作用して、最終的に結核が発症するかどうかが決まります。

また、結核の場合、発症に関わる遺伝要因、成育環境は変えられなくても、発症後に結核菌の増殖を、抗生剤と静養や食事といった療養によって止めることができます。同様に、こころの病気や発達障害の場合も、発症に関係する要素全てを何とかしなくとも、療育やご家族のサポートを含めた環境要因や、薬や精神療法などの治療で、改善が見られる可能性があると言えます。

また一方で、結核のように、雨に打たれて低体温になったことは結核発症のきっかけにすぎないのと同様に、こころの病気や発達障害も環境要因はきっかけにすぎないことも多く、心因的な要素を過大に考えることは正しくないと言えます。

図2. 様々な疾患の双生児研究の結果

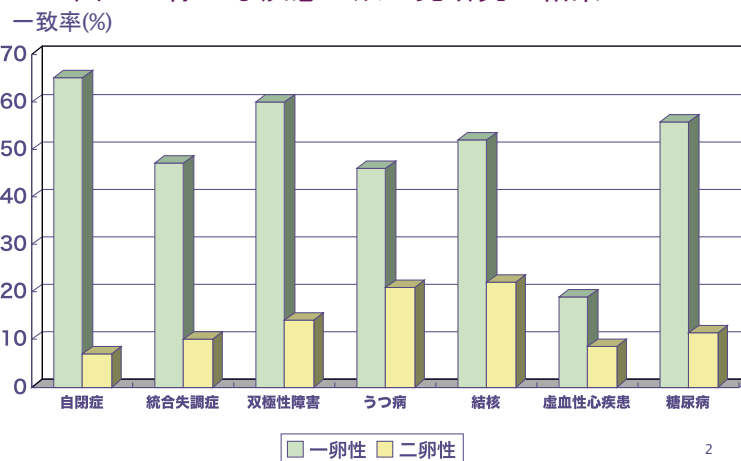
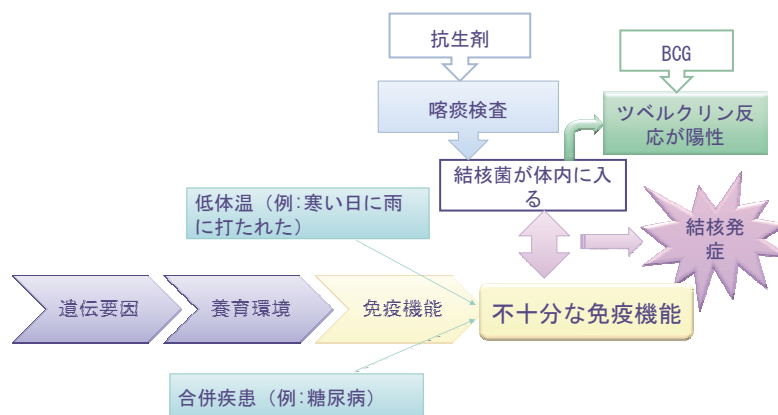


図3. 結核菌、結核発症とその治療



研修医の災害医療支援活動

2年次研修医 中原 光三郎

【被災地医療研修・地域医療研修】

この度、岩手県立宮古病院にて7月16日(火)～8月9日(金)の4週間、被災地医療研修・地域医療研修を経験させていただいたので、報告いたします。

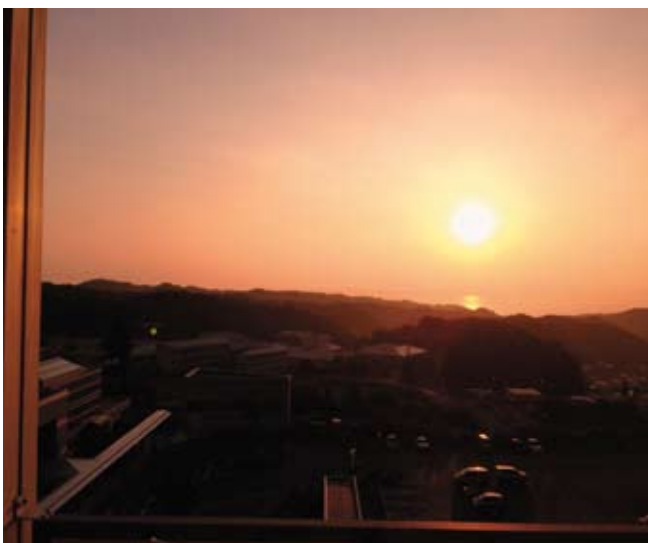
研修先・研修内容は、宮古病院(院内研修として神経内科にて外来・病棟業務、救急外来)、山田病院(外科外来、訪問診療、往診)、小本診療所・田老診療所・重茂診療所(外来、訪問診療)、および宮古市保健福祉部(宮古保健センター、介護保険課、社会福祉協議会)の見学でした。

【被災地研修として学んだこと】

- ・震災後約2年半が過ぎようとしている現時点で未だ仮設住宅での生活を余儀なくされている現状があり、その多くの方が高齢者である。
- ・仮設住宅での生活は物理的、精神的にストレス過多の環境であり、在宅療養支援などの医療介入の必要性が高まる状況である。
- ・十分な医療施設、医療機器がない状況での医師の役割は、十分な経験に根ざした熟練した感覚と技術をもって、家族を含めた患者さんに対する全人的医療を行うことである。
- ・震災により、医療施設の減少・縮小や医療従事者の減少が引き起こされ、既に存在していた地域医療危機の状況がさらに悪化している。
- ・復興は未だ十分には進んでいない事は被災地以外にはあまり知らされていないのが実情であり、その事をもっと周知させることで、現在も続いている全国からの医療協力を改めて進めていく必要がある。

【地域医療研修として学んだこと】

- ・地域医療においては医療・保健・福祉の連携が大きな鍵となる。
- ・地域に十分な医療施設が整っていない状況では、在宅療養支援体制を充実させる事が必要であり、そのためには医師をはじめとする医療従事者の確保が必須である。
- ・地域医療が充実されていない状況においても、予防医学の考えを普及させることは可能であり、健康寿命を延ばすことなどからも地域医療充足への対策はできる。



太平洋を登る朝日（宿舎より撮影）

4週間という短い間でしたが、多くのことを学ばせていただきました。毎日のように各科の先生方、看護師、コメディカルの皆様に変にお世話になりました。

自分の医師人生にとってその場所でしか得られない大きなものを手にすることができたと心の底から感じました。お世話になりました皆様に心よりお礼を申し上げます。

名古屋大学医学部附属病院の災害医療支援活動 (平成25年10月31日 時点)

名大病院では、平成23年3月12日に「東日本大震災医療支援対策本部」を設置し、各大学病院との協力体制の下、被災地への医師等の派遣をはじめとする医療支援活動を行ってきました。

その後も、被災地における医療ニーズの変化に対応した、継続的な支援活動を展開しております。

平成25年度

	派遣者	派遣期間	派遣先
医療支援チームの派遣	2名(1名:医師・放射線科/ 1名:放射線技師・放射線部)	4月30日～5月1日	福島地区
	1名(医師・麻酔科)	7月8日～7月12日	いわき地区
	1名(医師・手術部)	8月26日～8月30日	
	1名(医師・産婦人科)	10月1日～10月15日	白河地区
	1名(医師・産婦人科)	10月16日～10月31日	
卒後臨床研修医の派遣	1名(2年次研修医)	6月17日～7月12日	岩手県立宮古病院 等
	1名(2年次研修医)	7月16日～8月9日	
	1名(2年次研修医)	8月12日～9月6日	
	1名(2年次研修医)	9月9日～10月4日	

平成24年度

	派遣者	派遣期間	派遣先
医療支援チームの派遣	1名(医師・こころのケア医療支援チーム)	6月17日～18日	相馬地区
	1名(医師・こころのケア医療支援チーム)	7月22日～23日	相馬地区
	1名(医師・麻酔科)	9月3日～7日	いわき地区
	1名(医師・こころのケア医療支援チーム)	9月23日～24日	相馬地区
	1名(医師・整形外科)	10月1日～5日	高田地区
	1名(医師・麻酔科)	11月5日～9日	いわき地区
	1名(医師・整形外科)	3月11日～15日	北茨城市
卒後臨床研修医の派遣	1名(2年次研修医)	7月17日～8月10日	岩手県立宮古病院 等
	1名(2年次研修医)	9月10日～10月6日	
	1名(2年次研修医)	10月9日～11月2日	
	1名(2年次研修医)	12月3日～28日	
	1名(2年次研修医)	1月28日～2月22日	

*平成23年度の支援活動状況はかわらばん88号に掲載しています。

平成25年度鶴舞公開講座 「いつまでも健康で快適な生活を送る秘訣」

総務掛

11月23日(土)に「いつまでも健康で快適な生活を送る秘訣」と題し、平成25年度鶴舞公開講座を開催しました。鶴舞公開講座は、平成17年度から、医学部と附属病院が共催で、市民向け公開講座として、年1回開催しているものです。社会的に関心が高く、日常で役立つ話題をテーマとしています。今年度は、以下の3つの講演を用意しました。

平成25年度鶴舞公開講座「いつまでも健康で快適な生活を送る秘訣」

■医学系研究科 リハビリテーション療法学専攻 山田純生先生

講演「高齢期の体力を維持するにはコツがある」

■医学部附属病院 整形外科 村本明生先生

講演「ロコモティブシンドローム(ロコモ)って何?～永く元気に生きるための知識と心掛け～」

■医学系研究科 地域在宅医療学・老年科学 葛谷雅文先生

講演「その食べ方、間違っています。健康長寿に向けた栄養の考え方」

山田先生の講演では、高齢期の体力を維持するための骨格筋ポンプ能の紹介があり、村本先生の講演では健康長寿であるために、ロコモティブシンドロームの基礎知識や予防方法等について、葛谷先生の講演では、虚弱予防やサルコペニア予防のための高齢者の栄養に関する注意事項について紹介がありました。いずれの講演でも、先生方が時折ユーモアを交えてわかりやすく紹介し、和やかな雰囲気の中、受講者の皆さんは熱心に耳を傾けていました。また、講演の後の質疑応答も大変活発に行われました。

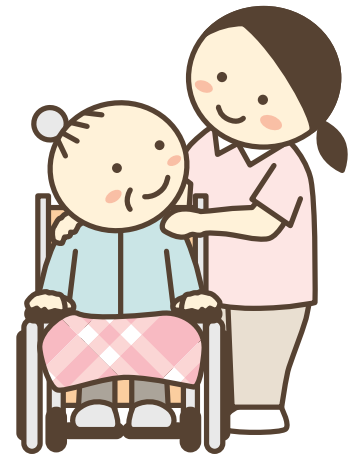
当日は晴天にも恵まれ、リピーターを数多く含む20代から80代の幅広い年齢層約260名が受講しました。受講者からは、大変参考になった、次年度以降もぜひ参加したいという声が多数聞かれました。



ボランティアさん紹介

山口 慶子

私は普段は病気になっても近くの病院にさえ通うのをためらうくらいの病院嫌いです。そんな私も海外で暮らしていた際は、子どもや知人の付き添いとして、または自分の突然の病気・事故で必要に迫られ、度々大きな病院に行きました。保険の申請から始まり、診察の予約の取り方や手術の申し込み方、薬の貰い方などシステムがよく分からないため、突然のけがや病気の動揺に加え、病院に行くこと自体が不安でした。そのような体験から、おそらく大変な勇気をふるって来院されるであろう患者さんが、右往左往されることのないようそっと手助け出来ればという思いで、ただ今外来のボランティア研修しております。また、英語でも対応できるよう準備しております。どうぞよろしくお願いいたします。



行事報告

リスクマネジメント掛

○平成25年度(後期)医療安全・院内感染対策・医薬品安全研修について

12月2日(月)～12月5日(木)の間、名大病院の従業者に対し、医療安全管理、院内感染対策、および医薬品安全に関する研修を実施しました。

特に医療安全・院内感染対策研修は、医療法により病院の管理者に年2回程度の定期開催が義務付けられている「従業者に対する研修」にあたります。このため、上記研修期間後もDVD貸し出し、またはeラーニングでの研修を引き続き行いました。

今後も、一層の研修機会の充実に努めます。



平成25年度 後期研修テーマ

- ・ 医療安全研修:「患者参加について」
- ・ 感染対策研修:「適切な感染対策・細菌検査・抗菌薬使用」
- ・ 医薬品安全研修:「医薬品による副作用発現時の報告および安全性情報のフィードバックについて」

行事報告

○クリスマス音楽会を開催しました

4年前から始まったクリスマスコンサート・夏の音楽会に引き続き、平成25年12月24日(火)に看護部QCプロジェクト主催によるクリスマス音楽会が開催されました。9回目となる音楽会では、心温まる総合診療科の鈴木先生による司会、病院長のあいさつ、看護部の皆さんによるハンドベル演奏など、以下プログラムに沿って行われ、寒い中参加された多くの患者さんと楽しいひと時を過ごすことができました。

クリスマス音楽会プログラム

皆さまと楽しいひと時を過ごせたら…

そんな思いで続けてきた音楽会も9回目を迎えました。

練習の成果をぜひご覧下さい。

【プログラム・演目】

- ①ハンドベル演奏 ②バイオリン演奏 ③フラダンス
- ④サックス演奏 ⑤バイオリン演奏 ⑥みんなでコーラス



ハンドベル演奏



司会の様子



フラダンス



バイオリン演奏やサックス演奏の様子

行事報告

○「長月の旋律」を開催しました

9月12日(木)に、中央診療棟2階リハビリ広場にて、名工大のギターアンサンブル部によるコンサートを開催しました。これは、毎年名工大祭の一環として行われているもので、今回はギターアンサンブルによる企画です。独奏、二重奏、三重奏、合奏等と編成毎に分かれて演奏されました。ソロでは「愛のロマンス」や「Summer」が、二重奏では「哀愁のバイオレット」、「風」、「sky! sky! sky!」、三重奏では「アゲハ蝶」、合奏では「Spanish Coffee」等が演奏され、静かな曲から活気のある曲までいろいろな雰囲気が楽しめ、若さ溢れる演奏に一同聞き入っていました。



○「秋のコンサート」を開催しました

9月25日(水)に、中央診療棟2階リハビリ広場にて、ピアノとソプラノによるコンサートを開催しました。演奏は、「虫の声」「小さい秋見つけた」「里の秋」等、馴染みの曲目で十数曲をソプラノで丁寧に歌い、秋の季節に相応しい内容で、参加者の皆さんはじっくり聞き入っていました。最後に、東日本大震災後作られた「花は咲く」をみんなで歌って締めくくり、終了後、若園副看護部長から演奏者へ感謝状が贈呈されました。



○「ダンス&ピアノコンサート」を開催しました

10月3日(木)に、中央診療棟2階リハビリ広場にて、身体に障害のあるメンバーによる電動車椅子でのダンスと、後半はピアノのソロによる演奏を行いました。ダンスは筋無力症の障害を持った4人のメンバーによる予定でしたが、1人体調を崩し救急治療部で処置を受ける事態となり、3人でのダンスとなりました。BGMを流し、車椅子を操作しながらのダンスは俊敏な動作で見応えありました。後半は3名の奏者によるピアノソロで、ショパンの「エチュード」や「ノクターン」、日本の唱歌のメドレー等が演奏され、参加した皆さんは寛いだひとときを楽しんでいました。



○「ピアノとオカリナの響き」を開催しました

10月21日(月)に、中央診療棟2階リハビリ広場にて、ピアノとオカリナのコンサートを開催しました。これは、ピアノとオカリナによる合奏ではなく、前半をピアノソロで、後半を3人のオカリナユニットによるオカリナの二重奏とギター伴奏という内容です。ピアノソロでは、「エンターテイナー」やショパンの「華麗なる大円舞曲」「前奏曲」「ノクターン」「ポロネーズ」、シューマンの「トロイメライ」、ベートーベンの「月光ソナタ」から「第一楽章」等クラシックを主体に演奏されました。オカリナ二重奏の方では、「里の秋」「手ぶくろ」「もののけ姫」「君をのせて」「翼をください」等馴染みのある曲目が演奏され、二重奏での音の重なりが印象的でした。最後は「花は咲く」で締めくくりコンサートを終了いたしました。



行事報告

○「ピリカ会ミニ・コンサート」を開催しました

10月31日(木)に、中央診療棟2階リハビリ広場にて、ピリカ会メンバーの歌によるコンサートを開催しました。ピリカ会というのは、お茶の水女子大学の卒業生達によって結成された約20名のグループで、名大病院では平成22年3月から今回で4回目の開催となります。曲目は、「歌よありがとう」、「広い空の下で」、「私のお気に入り」等をコーラスで歌い、途中ソロで、「星に願いを」や「いのちの理由」が披露され、きれいなソプラノが会場に響きました。最後に「ちいさい秋見つけた」を皆で歌って終了とし、秋に相応しいコンサートとなりました。



○「ケイコ&コウジ・ロビーコンサート」を開催しました

11月6日(水)に、中央診療棟2階リハビリ広場にて、歌とギターによるコンサートを開催しました。ケイコさんは、数年前から癌を患いながらも、童謡や演歌から最新の歌まで幅広いレパートリーを持ちライブ活動をしています。コウジさんは、「NHKのど自慢」のギタリストとして、作詞・作曲・編曲家としても活動しています。曲目は、「花は咲く」を筆頭に「あこがれのハワイ航路」、「りんごの歌」、「君恋し」、「東京のバスガール」等戦後の昭和を思わせる曲目で、時折入るケイコさんのトークに笑いと歓声が響いていました。コウジさんのギター演奏も素晴らしく、澄んだ音と低音のきれいな響きが見事でした。1時間しっかりと演奏され、充実したコンサートでした。



平成25年1月1日発行



ナディック通信no. 33

新年明けましておめでとうございます。今年も多くの患者さん、ご家族に利用していただけるナディックを目指していきたいと思ひます。

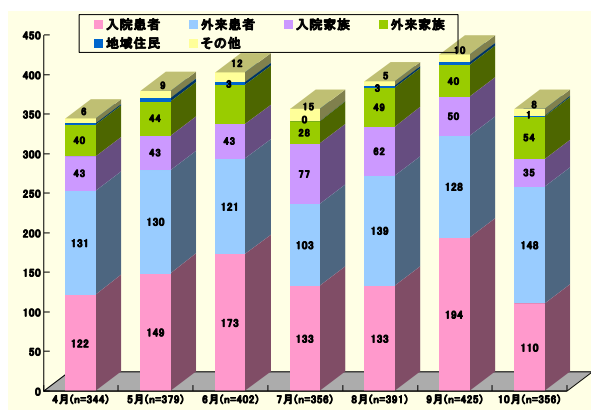
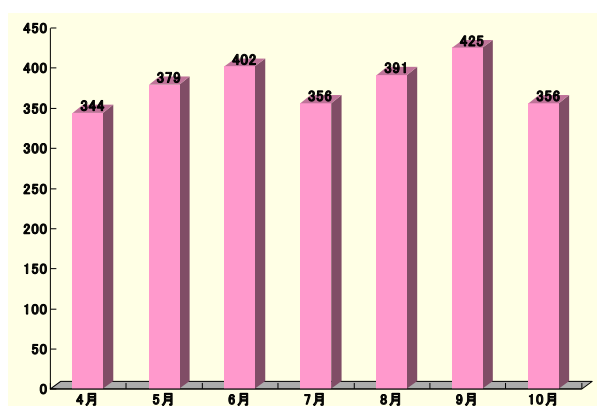
さて、今年初めてのナディック通信は以下のような項目でお伝えいたします。

TOPICS

- ✓ 平成25年度4月～10月 統計
- ✓ 新しい運営委員の紹介
- ✓ 手作り教室のご報告
- ✓ ウィッグ・頭皮ケア相談会のご案内



平成25年度4月～10月 ナディック利用者統計



【新しい運営委員の紹介】



このたびナディックの運営委員に新たに加わることにになりました、医療ソーシャルワーカーの榎原と申します。

ナディックが健康や病気についての知りたい情報が得られ、患者さんご家族にとって、憩い集いの場となるようお手伝いをしていきたいと思ひます。ナディックのますますの発展を目指し、運営委員のメンバーと協力しながら、取り組んでいきますので、どうぞよろしくお願いしします。

手作り教室のご報告

11月6日(水)に手作り教室が開催され、今回は「こびとの
おじいさん」を作りました。参加された方は毛糸やフェルトを
使い、思い思いに作品づくりを楽しまれていました。

毎月季節にそったテーマなどでだれでも簡単に作成できる
ものを中心に手作り教室を開催しております。

毎月第1水曜日の13時半よりナディック内で行っており、参
加費は無料で、予約も必要ありません。是非ご参加ください。



ウィッグ・頭皮ケア相談会のご案内

相談日: 毎月第2・第4 水曜日定期開催

時間 : 11時~13時

場所 : 中央診療棟2階 広場ナディック(おしゃれサロン内)

ナディックのおしゃれサロンでは、ウィッグやバンダナキャップの見本品を常時展示して
おります。おしゃれサロン内では、毎月第2, 第4水曜日の月2回に主に化学療法に伴う
脱毛についてお悩みの方を対象として「ウィッグ・頭皮ケア相談
会」を開催しております。

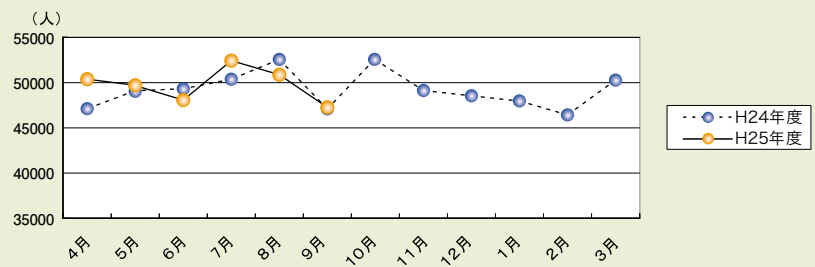
患者さん、ご家族からは「化学療法中の頭皮ケアの仕方につ
いて知りたい」「ウィッグの種類について知りたい」「化学療法
中ではないが、脱毛が心配」などのさまざまな相談があり、
ご好評をいただいております。お手持ちのウィッグのつけ方や
お手入れ方法のご相談も可能です。今後とも定期的に開催
して行く予定ですので、お気軽にお立ち寄り下さい。



名大病院の医事統計

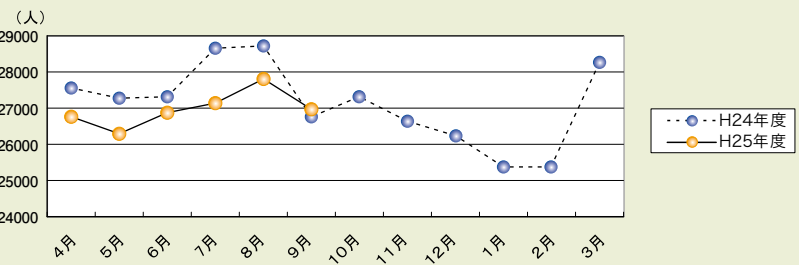
経営企画課

1. 外来患者数の推移



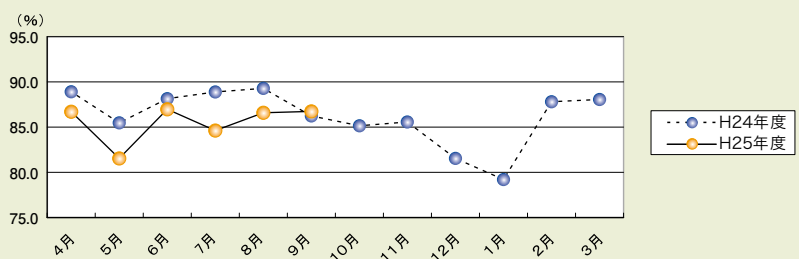
2. 入院患者数の推移

(註) 入院患者数は、在院患者延日数 + 退院患者延日数です。



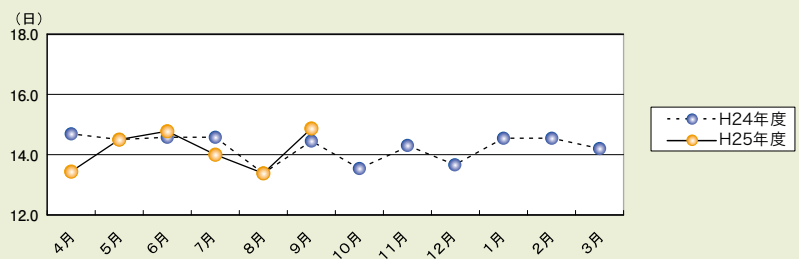
3. 病床稼働率の推移

(註) 病床稼働率の計算は、実働病床数 1035 床に対する割合です。

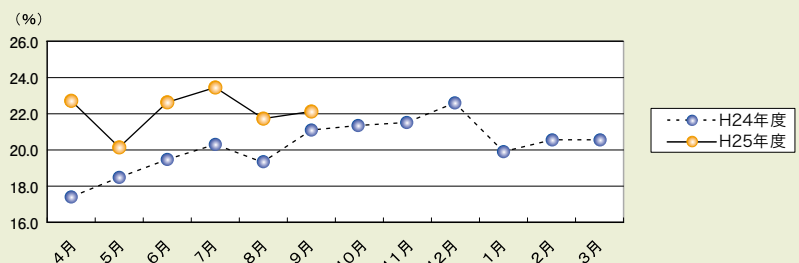


4. 平均在院日数の推移

(註) NICU, 精神病棟等を除いた一般病棟の健康保険上の平均在院日数です。

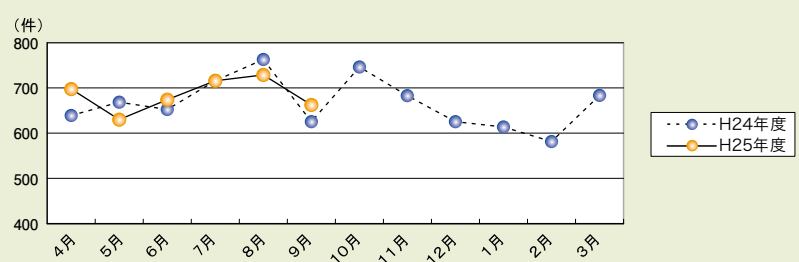


5. クリニカルパス適用率の推移



6. 手術件数の推移

(註) 中央手術室での手術件数のみです。



編集後記

新年明けましておめでとうございます。

昨年を振り返ると、さまざまな出来事がありました。その中でも、“アベノミクス”によるインフレ政策、消費増税は生活にどんな影響があるのか、大きな関心事です。4月からは、消費税8%になります。その次は10%です。病院経営にとって、収入が増えずに出費が増えれば、苦しくなることは当然ですが、未だ国の消費増税に対する収入面での対応ははっきりしていません。もちろん家計にとっても同じで、収入の増加が実感できなければ苦しくなるだけですが、不安を言い出せば、キリがありません

東京オリンピック招致の決定など明るいニュースもありました。オリンピックによる経済効果はあれこれ言われていますが、消費マインドが上向きになることによる消費拡大が言われています。経済においても、“気持ち”というのが重要なキーワードです。

病院も同じで、“病は気から”とよく言いますが、個人的にも暗く、ドヨーンとした病院は、あまり良い気がしません。病院の雰囲気明るく、職員が“イキイキ”働く姿は、患者の治療にとっても必ず良い影響があると私は思います。

“人が育つ病院”など、職員に目を向け、働く意識や満足度UPに取り組む“イシグロミクス”に期待して、今年も一年、明るく元気に前向きに健康第一で頑張りたいと思います。

(経営企画掛長 高井真治)

お知らせ 『かわらばん』は、名古屋大学医学部附属病院ホームページでもご覧いただけます。
ホームページアドレス
<http://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/>
(トップページ⇒最新情報⇒病院かわらばん)

かわらばん編集委員会

顧問	石黒 病院長	塩崎事務部長
アドバイザー	室原 豊明	
委員長	中島 務	
委員	鈴木 富雄	石川 和宏
	阿部 真治	高津 真由美
	植村 真美	稲垣 祐子
	曾谷 祐一	平松 利朗
	下坂 香	堀 貴菜
	長谷川 清子	高井 真治
	隅坂 弘幸	新田 浩平

No.91
医学部・医学系研究科総務課
TEL 741-2111
(内線5003)
かわらばん編集委員会
発行日 2014年1月1日